



縁

社会教育主事通信
～えにし～

松江市教育委員会
生涯学習課・学校教育課
2020/12/18(金) 第9号

延期になっていた

「松江市一回りふた回り」等連絡会

令和2年11月12日(木)
9:50～11:30
松江市市民活動センター

を実施しました。

本会は、子どもの育ちや学びに携わってくださっている皆様が思いを共有し、つながり合うことで、地域で子どもを育てる体制づくりや人づくりを推進していくことを目的にH28年度からスタートしました。

今年は、講師に教育学博士 齋藤 哲瑯 氏（川村学園女子大学名誉教授、島根県益田市在住）をお招きし、「『ONE TEAM』で子どもを育てる～地域ぐるみで子育てを～」をテーマに、感想交流などを交えながらオンラインでお話をいただきました。

当日の内容

9:30	9:50	9:55	11:25	11:30
受付	開会行事	【講演・感想交流】 演題「『ONE TEAM』で子どもを育てる ～地域ぐるみで子育てを～」 教育学博士 齋藤 哲瑯 氏		閉会行事

- 【講演内容】
- ・子育ては、子どもの自立を促すことにある。
 - ・満足感や充実感が感じられる場と機会の提供をする。
 - ・限定された「3つの間」(空間、時間、仲間)を変えることによって、自分で考え、判断する場にしていく。
 - ・PTAが軸になって、家庭と学校の責任と役割を明らかにし、できることから実践する。
 - ・地域社会とつながりがある保護者は、子育ての不安や悩みが少ない。
- 【参加者】
- ・地域学校コーディネーター
 - ・放課後子ども教室スタッフ
 - ・放課後児童クラブスタッフ
 - ・親楽ファシリテーター
 - ・放課後等デイサービススタッフ
- 【感想から】
- ・地域とのつながりが子どもたちにとって大切なものであることを学びました。そのためには我々大人同士のつながりを深め、共に地域を作っていくという志をもつことが必要だと感じました。
 - ・子どもに対して、つつい口を出してしまうことが多いように思います。見守りの大切さを再認識しました。同じ地域の方とも交流ができて良かったです。
 - ・大人がそれぞれの立場でできることを本気で考え、取り組む必要があると思います。

参加者の皆さんは、講演内容にたいへん満足されていました。その分質問も多かったように思います。講師の先生のご厚意より、後日、質問に丁寧に回答していただきました。その内容を抜粋して裏面に紹介します。ぜひご覧ください。

「教えてください！」 齋藤先生!!

Q. 親へのアプローチ（子どもの指導について）をどうしたらよいのか？

A. 上から目線で「このようにしなさい」といった指示は一切してはいけません。コーディネーターとして相談には乗るけれど、クライアントが自分で考え、自らが実行していけるように対応していくことが最も大切です。まずは相手の話を良く聞いて、必要に応じて地域社会に存在する機関、施設、人材などうまくつなぎ合わせていくことが重要な役割だと考えます。決して指導や指示はしないことです。「子どもにガミガミ言わないこと」「指示をしないこと」、最も大事なことは「子どもの声をじっくり聞くこと」です。

Q. 我が子をどう育てるのが自分なりの考えをもてない保護者に対して、今日のような先生のお話をどう伝えていったらいいのか？

A. 本来、子育てはプライバシーの領域に入るので、他人が意見を言ったり指示をしたりすることは好ましくありません。例えば、「あなたのお子さんは態度が悪いのですが、家庭ではどのようなしつけをしていますか」などのような発言や態度は、一切とってはいけません。人間関係が悪くなることはもちろん、その後の家庭環境にも影響していきます。それと、講演内容をいくら説明しても、間接的になるため講師の意図は十分に伝わりませんし、場合によっては強制的に受け取られることもあるでしょう。ですから、少しずつお互いの関係が良くなるような努力をするとともに、お互いの関係が良くなってきたら、少しずつ研修会などに誘って行って本物の話を聞くようにした方が良さそうですね。

Q. 親として、子どもへの接し方を教えてほしい。

A. 大人はどうしても子どもをしつけることに目が行きがちですが、そのことだけでなく「子どもの声を聞くこととその姿勢」が大事です。一方的に指示をするのではなく、子どもから発言するように仕向けること、普段の何気ない会話の中で子どもに気づかせること、約束したら子どもにさせてみることです。親の言動を見てまねをすることも多いので教えるだけではないのです。それと大事なことは、「友だちの〇〇〇ちゃん是可以するのに、あなたはできてできないの！」のように、友だちとの比較は絶対にしてはいけません。成績の話も避けた方が良いでしょう。

親の態度によって子どもは変わっていきますし、「親が自分の話を聞いてくれた」だけでとても嬉しさを感じ、そこから親子の会話は弾み信頼関係が育まれていきます。

最近の親御さんは、子どもの失敗を許さない傾向が強くありますが、それは間違いで、「失敗し、子どもに考えさせて、失敗しないようにするにはどうしたらよいか」を考えさせることです。失敗を恐れてはいけません。そして、失敗したからと言って子どもを責めてはいけません。

お問い合わせ先
生涯学習課(渡辺)
TEL 55-5656
FAX 55-5543



学校教育課(平賀)
TEL 55-5324
FAX 55-5251



E-mail: s-kikaku@city.matsue.lg.jp E-mail: shochuikkan@city.matsue.lg.jp

お気軽にお電話ください!